



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

■ 今週の感染症情報



（調査週） 平成 23 年 第 26 週 6 月 27 日（月）～ 7 月 3 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	手足口病	2.97	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	1.91	↓	↓	→～↓	→
3	水 痘	1.43	→～↓	→	→～↓	→～↓
4	A 群溶連菌咽頭炎	1.23	→	→～↓	→	↑
5	ヘルパンギーナ	1.03	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は 179 例で、前週報告の 197 例からやや減少。上位 5 疾患は、①手足口病、②水痘、③感染性胃腸炎、④ヘルパンギーナ、⑤伝染性紅斑の順。手足口病の報告数（54 例）は、増加。ヘルパンギーナの報告数（21 例）も、増加。感染性胃腸炎の報告数（23 例）は、ほぼ半減。伝染性紅斑の報告数（18 例）は、半減。水痘の報告数（26 例）は、やや減少。奈良市 HC および郡山 HC 両管内基幹定点と眼科定点からの報告はなかった。

（村井 記）

県北部外来状況：外来患者数は減少している。ほとんどが夏型感染症となっている。手足口病の流行は持続しており 1 日程度の熱がありその後手足に発疹が出てくるが、口内炎がみられない例もある。プール熱が増えてきている。熱は高熱が持続するものと、1 日のうちで上下する場合もある。球結膜の充血が目立たず、咽頭所見も軽微な例もあり、アデノウイルスの迅速検査を行わないと判りづらい。高熱が突然出て頭痛を訴える夏風邪は減っている。

（矢追 記）

県中部地区概況 報告数は183例から173例とやや減少した。上位の5疾患(25週→26週)は、①手足口病(17例→39例)、②感染性胃腸炎(59例→35例)、③A群溶連菌咽頭炎(24例→25例)、④水痘(27例→18例)、⑤咽頭結膜熱(30例→16例)＝伝染性紅斑(10例→16例)の順であった。手足口病は増加して1位となり、感染性胃腸炎は減少し2位となった。インフルエンザの報告はなかった。眼科定点からは流行性角結膜炎2例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。(徳田 記)

県中部外来状況：外来数は僅かに増加、多くはない。乳児を中心に1～2日の39～40度高熱、咽頭中程度発赤のアデノその他のウイルス様の夏風邪が主。手足口病が流行中。口内疹が殆どなく丘疹も手足末端には少なく、四肢全体、軀幹に散在する例が多い。5才児で高熱と手足口病の発疹とヘルパンギーナの口腔内所見を呈した例があった。感染性胃腸炎の流行があり、年長児ではO群大腸菌感染が多く、乳児ではウイルス性と思われる例が多い。ロタウイルス陽性例が1例あり、4月と7月の2回陽性確認した例があった。2回目は軽症経過であった。9才で典型的X線像を呈したマイコプラズマ感染例があった。他に、水痘、伝染性紅斑、A群溶連菌感染症が流行中。(岡本 記)

県南部地区概況 報告数(第25週→第26週)は、44例→50例と推移。報告のあった疾患は、①手足口病(4例→11例)、②A群溶連菌咽頭炎(7例→9例)、③感染性胃腸炎(8例→9例)、④咽頭結膜熱(3例→6例)、④水痘(13例→6例)、④ヘルパンギーナ(3例→6例)、⑦伝染性紅斑(0例→1例)、⑦突発性発疹(2例→1例)、⑦流行性角結膜炎【眼科定点】(1例→1例)。(柳生 記)

県南部外来状況：外来数は少し増加したが多くはない。第26週から手足口病が増加した。口腔疹は無いが軟口蓋に軽く認める程度で、手掌や足底の発疹も同様に僅かか殆ど認めず、四肢全体や時に顔面、軀幹に紅丘疹、一部水泡様を多数認めるものが多い。発熱で受診後翌日に発疹の出現するものもある。感染性胃腸炎はやや増加傾向で、キャンピロバクターなど細菌性が疑われるものの割合が多くなったが、若年成人でノロ迅速陽性の散発例もあった。水痘がやや多い。A群溶連菌咽頭炎は少ない。咽頭結膜熱が少し増加した。成人の百日咳の家族内感染があったが、子供たち(幼児、DPT済み)の発症はなかった。(山本 記)